

Relation ここみ

株式会社ここみケア
第2号
2023年2月発行



代表取締役社長

兼子 広喜

(前編に続く)

専門学校卒業後、整骨院の院長を経て整骨院の管理と認知症デイサービスの介護現場もサポートしながら、運営法人管理など一人何役も担ってきた兼子広喜。理想の職場を実現するべく株式会社こみケアの社長に就任したが、その後の道のりも決して平坦ではなかった。数々の試練を兼子はいかにして乗り越えてきたのか。後編ではこれまでの歩みを振り返るとともに、この仕事にかける思い、未来への展望、そして仲間たちへのメッセージを聞いた。

苦境にあってもチャレンジ精神を忘れずに！

社長を引き継ぎ新たな一歩を踏み出した兼子だったが、間もなく大きな壁が立ちちはだかる。グループ会社を統合することになったのだが、グループであって

も会社間の人間関係がうまくいかなかったり、売り上げが思うように伸びず、準備した資金が枯渇しそうになったりなど、多岐にわたる問題にぶち当たった。

「資金はみるみる減っていく、底が尽きるのも時間の問題に……。自分たちの計画の甘さと現実の厳しさを思い知りました」。

人間関係が原因で離職するスタッフを何度も見送るたびに湧き上がる寂しさと虚しさ。「こうなる前に、何か対策が取れたのではないか」という後悔の念。どちらも兼子の胸に、今も鮮明に焼きついている。

業界の事業経験豊富な元先輩を社内招聘したがアドバイスを鵜呑みにして、事業の幅を広げすぎてしまったのも、苦い思い出だ。「これは本来、自分たちの目指す方向とは違うのでは」と途中で迷いが生じて、後に引くとい

う決断ができなかった。強引に前に進んでしまったために、最終的には、事業譲渡という苦渋の選択をすることになったのだ。この一件は、事業内容と展開スピードについて、足を止めて考える大切さを兼子に教えてくれた。

失敗や反省が多かったのも事実だが、一方で得られたこともある。既存の枠にとらわれず、新たな取り組みに積極的に挑戦したことだ。

「ショッピングセンター内での介護事業所展開は、全国で初めての試み。パワーリハビリの先駆的な導入や、認知症の多機能拠点、訪問マッサージ事業なども高く評価していただきました」。

一人ひとりの成長が、 会社の発展に

苦しい時期を乗り越え、一歩ずつ着実に前進を続けてきたここ

みケア。会社の成長と比例してスタッフも増え、近年は、人材教育にも一層力を入れる余裕が出てきた。その人材教育について、兼子は確固たる信念を持っている。

「知識や技術は教えられますが、基本的に、人が人を変えることはできないと思っています。教わったことを自分の意識に取り入れ、行動し、成長するのは本人次第。私たちにできるのは、成長を目指す人にどう関わっていくかを考え、実践することのみです」。

教育や指導とは、上から下へ一方的にノウハウを伝えるもの。人の成長はそのノウハウを押しつけることではない。成長は教える側が良い手本になろうと意識し、教える者も含めた本人の成長する環境をいかに作れるか、関われるかが大切。そのような過程を経て双方が少しずつ成長すれば、や

がて大きな潮流となり、組織全体の価値も高まっていくのである。

未来に向かい、着実な 一歩を踏み出していく

「ここみケアをより良い会社として成長させていくために、ここで働く皆さんにはたくさんチャレンジしてほしいと強く願っています。『こんな対応をしたい』『こんな人物になりたい』という夢をそれぞれが描き、仕事を通して自己実現してくれば、それに勝る喜びはありません。明るい未来を全員でつかみとっていきましよう！」

ともに働く仲間たちに、力強いメッセージを贈る兼子。以前たびたび口にしていた「100人の社長をつくりたい」との思いは、今も心の奥底で熱を持っている。一人ひとりが「自立した自己実現」の意識を持って目の前の仕事に

向き合えば、素晴らしい職場になるはずだ。

そんな兼子自身は、サービスの種類を増やし、さまざまな分野で事業展開していきたいと、今後の展望を前向きに語る。目指すのは、介護や医療だけでなく人々の生活環境を支援し、地域社会に貢献できる会社。宮城県を中心に事業展開を進め、その輪を広げたいと将来のビジョンを思い描く。

ここみケアをさらなる高みへ導くために、日々奮闘を続ける兼子。自身と従業員の成長する力を信じ、その眼差しはまっすぐに未来をとらえている。

笑顔を作る

賞賛・承認大作戦

通信
vol. 1

毎月皆さんの投稿・投票によって行っている笑顔を作る賞賛・承認大作戦。

見事1位を獲得した事業所について、『Relationここみ』でも特集します！

今回は2022年12月の「最優秀投票賞」を獲得した「看護小規模多機能ここさいむら小田原」の
すてきな取り組みをご紹介します！工夫した点や取り組みの内容について、笹山さんにも伺いました♪

Merry Xmas!

看護小規模多機能では、なんとクリスマス会と忘年会を同時に開催！



ケーキをクリームと果物でデコレーション！
みんなで協力して作れば、
あっという間に豪華なスイーツが完成



ケーキができたところで、
サンタクロースとトナカイの登場！
2023年の干支の兎が描かれた絵を
皆さんにプレゼントしてくれました



せっかくなので、シャンパンとビールをご用意！
（ノンアルコール）
サンタの合図で、みんなでカンパ〜イ！！



最後は全員で記念撮影♪
2022年も大変お世話になりました！
2023年も良い年でありますように！
よ〜っ！



この取り組みについて、投稿してくれた笹山さんにも伺いました！

特に工夫した点は？

01.ケーキのデコレーション企画で 「ワクワク」を味わっていただきたい！

当事業所の利用者は、ほとんどが通所で来られている方であり、何よりも「ココに来ることへの楽しみ」が必要だと考えています。今回は、「お菓子を作るというワクワク」「自分たちで作ったものをみんなで食べるというワクワク」を感じていただきたい！という気持ちで準備を進めました。普段食が細く、あまり食べられないような利用者が、ケーキを目のまえにペロリと完食する姿も見ることができました！

02.利用者様へプレゼントした干支の兎の絵は、 笹山さん作！

忘年会の要素も取り入れるべく、利用者様へプレゼントした干支の兎の絵は、アプリを使って描きました。

実際にやってみてどうでしたか？

利用者様の楽しんでくださっている様子を見ることができたり、直接「楽しかった〜！」という言葉が聞けたり……。私自身入社して企画から携わった、初めてのイベントだったのですが、やはり全社員で「盛り上げていこう！」と取り組むことで、それが利用者様に喜んでいただけることにつながるのだと感じました。

すべてはサポートいただいた諸先輩方の心配りのおかげだと思っています。
本当にありがとうございました！
今後も月に1〜2回は、利用者様に楽しんでいただけるようなイベントを行っていければと思いますので、引き続きよろしくお願いいたします！



看護小規模多機能
ここさいむら小田原
介護職員
ささやま こうた
笹山 幸太さん

ここさいむら つむぎ

私の事業所のココが自慢!

宮城県の幸町にある「ここさいむら つむぎ」は認知症専門のデイサービスです。
一番の自慢である、ご利用者様一人ひとりに合わせた“セミオーダーメイド”のサービスとは、
一体どのようなことをしているのでしょうか?



私ご紹介
します!

ここさいむら つむぎ
管理者 係長代理
さかもと こうへい
坂本 孝平さん

01 「ここさいむら つむぎ」 ってこんなところ!

生活支援のほか宿泊サービスも対応

認知症専門のデイサービスとして、送迎、入浴や排泄の生活支援、健康チェック、簡単な身体機能訓練、ご家族様への情報提供を行っています。1日の定員は23名。提供時間は9:20~16:30で、ご家族様の都合に合わせた延長利用の対応や有料宿泊サービスの提供をしています。
メンバーは生活相談員1名、看護師3名、介護職員6名、送迎専属ドライバー1名、宿泊サービスの夜勤専属職員3名、私の計14名です。



02 ココが自慢!

“セミオーダーメイド”のサービスが自慢

少人数制の認知症専門のデイサービスとして、ご利用者様一人ひとりに合わせた対応ができる、3つの強みを持っています。

1.顔なじみの対応

初めて施設を利用するとき、行きたくない気持ちになるご利用者様も多数います。そうした不安を取り除くため、ご利用前に職員がご自宅に伺い、ご利用者様やご家族様と関係性を作ったうえで、体験利用や本利用に繋がっています。

2.時間の融通をきかせた対応

ご利用者様が慣れるまでは9:20~16:30の提供時間にとらわれず、短時間利用から始め、少しずつ利用時間を伸ばしていきます。

3.柔軟なお迎え対応

お迎えに行ったとき、なかなか準備ができなかったり、ご自宅から出るまで時間がかかったりする方もいます。そうした方は、他の方を一度施設へ降ろしてから再度お迎えに行くようにしています。

03 「他の事業所に負けなし!!」 という魅力

向上心高く何でも言い合えるメンバー

20代前半~60代後半まで年齢層が幅広いメンバーであるにもかかわらず、良い意味で何でも言い合える関係性を持っていることです。業務に関して改善点の意見や気づきなど、ちょっとしたことですぐ提案しています。
また、当施設は他の施設と差別化するために、レクリエーションの内容や体操のメニューなど新しいことにどんどん取り組んでいます。全員が億劫がらず、新しいことに対して向上心を持って取り組んでいることも自慢です!



04 今後の目標

「福祉といえばつむぎ」と言われる施設になる

売り上げや利益はもちろん大切ですが、私たちがそれ以上に重点を置いているのが地域との繋がり。幸町の地域に密着した認知症専門のデイサービスとして、地域住民との交流や情報交換をしながら、「つむぎに行く」と何でも解決すると言われる施設にすることが目標です。コロナ禍前は地域の夏祭りに参加したり、施設で芋煮会を実施して地域住民を招待して一緒に食べたりしていました。新型コロナウイルスが落ち着いてきたら、こうしたイベントも復活させたいと考えています。



05 一緒に働く皆さんの メッセージ

介護の専門性を高め、新しいことにもチャレンジできる会社です

介護という職種は専門的な側面があるので、現場のプロフェッショナルを目指すこともできます。また当社は新しいことに意欲的に取り組む社風ですから、意見やアイデアをどんどん形にしていけることも可能です。ぜひ自分自身の経験や知識を活かして、福祉業界を盛り上げてください!

あの人のすてきな行動

今回は、一緒に働く仲間の「すてきな行動」をご紹介します！
この行動を取り入れれば、明日からあなたもキラリと光るすてきな人になれるかも？！

To

同じ部署で仕事をしている

さとう ふみえ
※ 佐藤 文恵さん ※

5年4か月の社歴で、リーダーとして業務全般に関わって職員をまとめています。



From

グループホーム
ここさいむら小田原
主任

みうら こ
三浦 まき子さん

「常にご利用者様や会社を想う」行動

私は行事になると佐藤さんに無茶ぶりをしてしまうことがあります。2022年9月に敬老会を開催しました。率先して楽しむ必要がありますが、担当者でないとどうしても振りきって場を盛り上げることは困難です。私はイベントになると楽しくなってしまう性格であり、より雰囲気良くす

るために協力者を募ろうと、半ば強引に佐藤さんに盛り上げ役を頼みました。普段の佐藤さんは真面目な印象があり、率先して雰囲気を盛り上げることは得意ではないかもしれませんが、皆さんのためにイベントを盛り上げようと、私の無茶ぶりに応える姿はとてもステキでした！

●真似したいところ

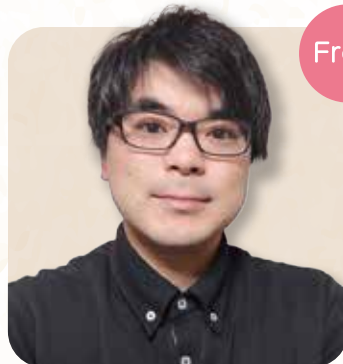
逆算して考えて的確に仕事をする点です。私は期日がある業務に関して、「期日前だからいいや」と考えてしまい、結果的に期日締め切り間際に着手することがあります。そのため、余裕をもって業務に取り組み、積極的に周囲をサポートしている佐藤さんの姿をお手本にしたいと思います。

To

同じ部署で働く同僚の介護スタッフ

いとう あずさ
※ 伊藤 梓さん ※

社歴は私よりも先輩で、10年半ほどお勤めされています。ケアマネージャーと現場スタッフを兼務し、介護業務に従事されています。日々情報交換や相談に乗っていただいている間柄です。



From

小規模多機能
ここさいむら美の里
主任

さとう まこと
佐藤 誠さん

「状況に応じて最適なやり方を実現する」行動

2022年末にクリスマス会を開催したのですが、コロナ禍ということもあって思うように準備が進みませんでした。そこで伊藤さんに相談したところ、「できることをやろう！」というアドバイスをいただきました。そしてイベント当日。私も他のスタッフも知らなかったのですが、何とフォトスライドを作ってき

て、ご利用者様の前でモニターに映して場を盛り上げてくれました。ご利用者様も「あのときの場面だね！」と大変喜ばれていて、私も嬉しくなりました。伊藤さんはその場の環境を踏まえてできることを考えてくれる方です。今の時代に必要な発想であり、マッチしたやり方だったと思います。

●真似したいところ

日常業務でも臨機応変に対応されている点です。周囲のスタッフのサポートもありますが、ご利用者様の状況を見た上で対応の優先順位を変え支援にあたっているシーンを見て学ばばかり。今後も伊藤さんの柔軟性を見習っていききたいと思います。



笑顔を作る／利用者様からの嬉しい言葉

皆さんは、利用者様からいただいた言葉で印象に残っているものはありますか？
今回は4名の皆さんに、利用者様から言われて嬉しかった言葉をお聞きました！



フォルテデイサービス
主任

いの ゆみ
猪野 由美さん

「猪野さんが出勤していると
1日安心してられる」

2022年7月、耳が遠い利用者様と筆談をしていたときのこと。それを隣で見ていた他の利用者様が何度も同じことを聞かれているにもかかわらず、対応している私の姿に感激してくれたようです。その後、私の名前の出勤カードが朝貼ってあると、「その日1日安心して過ごせる」とおっしゃってくれました。

\\ そのときに感じたこと //

常に利用者様は、私たちの仕事を観察されています。誰かが見ている、見ていないに関係なく、常に誠意を持ち接していけば、必ず気持ちも言葉も通じ合えると確信しました。



小規模多機能ここさいむら青山
ケアマネジャー

あかぎ しゅんこ
赤木 順子さん

「ここに来るのが楽しみなの！
いつも迎えに来てくれてありが
とう！」

2022年7月頃、一人暮らしをされている利用者様をお迎えに行った際、車の中でお話ししていただきました。認知症も進行してきており、一人であることに不安を感じての言葉だったのかもしれません。

\\ そのときに感じたこと //

一人暮らしの利用者様も多く、日々一人でいることへの不安や葛藤がある方もいらっしゃると思います。そんななかで、小規模で過ごす時間が楽しい、また来たいと思っていただける空間を提供できていることが嬉しく思いました。同時に忘れることがあっても喜びの感情に働きかけることができる支援をしていきたいと思いました。



グループホームここさいむら青葉

ちば りこ
千葉 理子さん

「あなたで良かった」

介護の仕事を始めた頃から、時々言っていただく言葉です。利用者様が不安なとき・困っているときなどに、私を見つけて「少し話聞いてくれる？」「あなたで良かった」と言われることがあります。認知症の方は物事を忘れると言われますが、印象的な出来事や感情は覚えていることも……。「忘れるから良いや」ではなく、普段から話し方や表情、一人ひとりに合った声掛けなどに気をつけています。

\\ そのときに感じたこと //

安心できる存在だと認知していただけて、とても嬉しく感じました。今後も利用者様に穏やかに生活していただけるように、施設全体で良い環境を築いていきたいと思います。



訪問看護ステーションsora

ちば きょうへい
千葉 恭平さん

「千葉さんのおかげで身体が
動くようになってきたよ。前
よりも動くのが楽になった」

2022年12月頃の出来事です。腰椎圧迫骨折受傷後に腰痛がひどくなり、ベッドから身体を起こすのも辛くなってきたことから利用を開始された利用者様。リハビリを受けるのが初めてだったので、ご本人の訴えを傾聴しながら、真摯に向き合った結果、その言葉をいただけたのかと思います。

\\ そのときに感じたこと //

「利用者様、一人ひとりに合ったリハビリ、サービスを提供できるように」と努めてきたので、利用者様からの温かい言葉をいただいたり、褒められたりすることをとても嬉しく感じました。引き続き、一人ひとりに向き合い、同じようなお言葉をいただけるように仕事へ取り組みたいと思います。

